

# 宝石箱のオルゴール



イースターエッグ形の宝石箱で、フタの内部にオルゴールが入っていました。

ネジの巻き過ぎでゼンマイが傷んだようで、オルゴールが動きません。

メカはミニチュアタイプの手ごわいもので、早々と、同型の新品ムーブメントに、櫛歯とドラムを、移し替える事にしました。

傷んだメカから、櫛歯とドラムを外します。軸受け部をゆるめるのに、普通の大きさのメカの場合は、四ツ目錐やリーマーの先を使いますが、ミニチュアタイプで穴も小さいので、今回は丸ヤスリで回してみました。

逆の手順で、櫛歯とドラムを新しいメカに移植して、オルゴールとしては、鳴るようになりました。



さて、宝石箱ですから、フタを開けるとオルゴールが鳴るのでしょうか。普通は、フタと箱の間にピンのようなものが出ていて、開閉でピンが動いて、オルゴールを作動させています。所が、フタにも卵型の本体にも、オルゴールのメカにも、その様な仕組みが見当たりません。



一晩考えて、やっと、この1センチ角程の、不思議な形の「固まり」が、その仕組みかも知れないと思いつきました。(黄色の丸印)

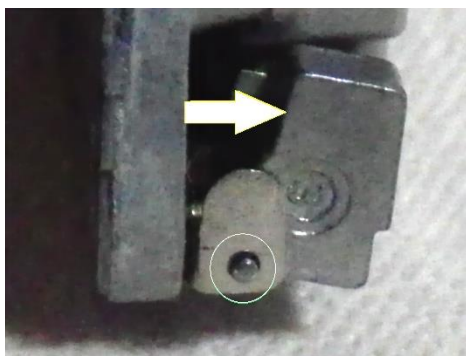
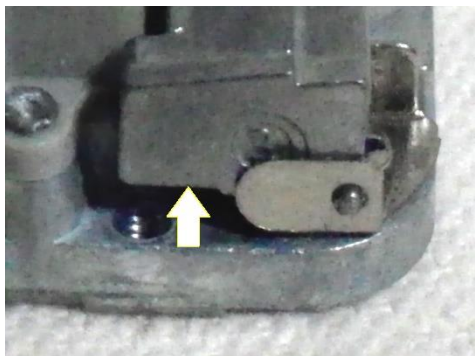
ただ、これがどう動いて、どう働くのかが、さっぱり分かりません。

何か部品とか、バネとかが失われたのか？

磁力でも使われるのか？

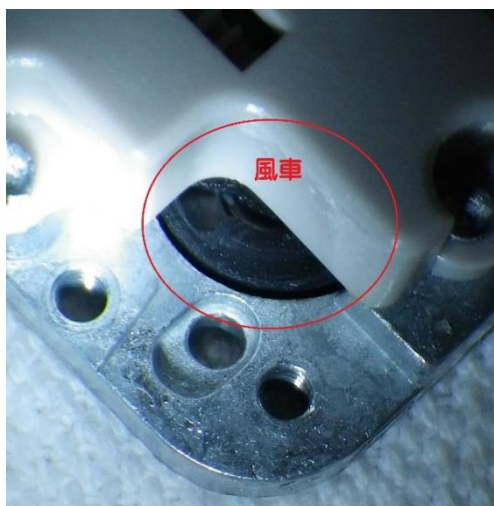
でも、痕跡ありません。

卵型のケースも、鉄ではなさそうですし。

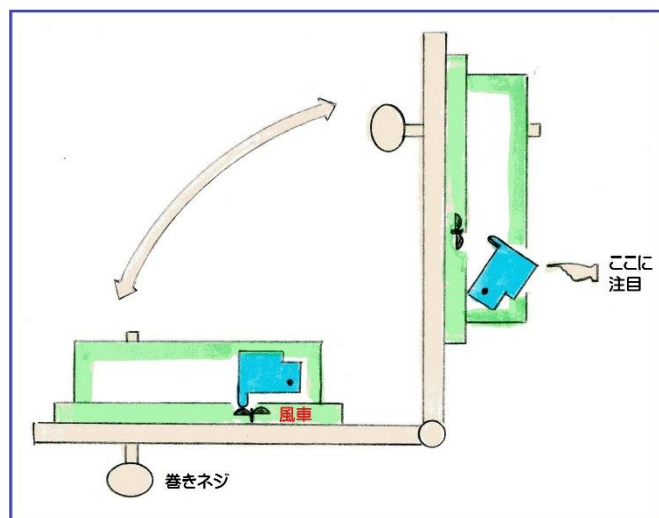


フタの内部にオルゴールを入れる事をあれこれ考えて、ひねり回している内に、固まりが、左写真のように動く事に、気がきました。

メカを縦にすると、固まりが矢印のように動いて、隙間が広がります。これが回答でした。固まりは錘で、メカの姿勢によって、白丸印の軸を中心に回転していたのです。



ミニチュアタイプのオルゴールでは、この赤丸印の所で、速度調節のための「風車」が回っています。例の固まりは、この風車を抑えたり外したりして、メカの回転を操作していたのです。



頭の整理のために、略図を描いてみました。

宝石箱を閉じている時は、メカは水平で、固まりは下がって、風車の回転を止めています。

フタを開けると、メカは垂直に立ち、固まりの先は

風車から外れ、オルゴールが回ります。まことにシンプルにして、巧妙な仕組みです。



分かってみれば、イースターエッグならぬ、コロンプスの卵でした。

完成写真です。  
(宝石箱の中の小鳥は演出です)

ゆきや記